



京都切り絵歳時記

月刊

あじenda

2007年

12月



みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区
深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F
活動支援室内
TEL : 075-647-3535 FAX : 075-647-3536
E-mail : ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

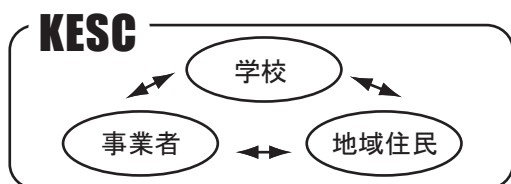
事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通
御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL : 075-211-9281 FAX : 075-211-9286

KESC 京都環境コミュニティ活動 各チーム活発に活動中 年明けにいよいよ本番

京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクトでは、地域において事業者、学校、住民などの各主体が協力して、環境問題を解決する仕組みづくりを目指しています。

本プロジェクトは、地域への社会貢献活動に取り組む市内の事業者と、京のアジェンダ21フォーラムならびにNPO等で構成する4つのチームで、今年度、自然エネルギーや交通に関する小学校への出前環境学習や、市民共同おひさま発電所づくり、水源の森づくりを実施しています。

各チームでは、活発な活動を積み重ね、年明けにはいよいよ出前環境学習の本番を迎えます。ついては、今回、今後の予定を含め、各チームの活動をご紹介します。（次ページへつづく）



図：KESCは学校区をベースにした
京都環境コミュニティ実現を目指します

プロジェクト参加者一覧（順不同）

●プロジェクトリーダー

長屋博久（有限会社村田堂 取締役）

●企業（17社）

生田産機工業株式会社、株式会社エコロ21、株式会社エスケーエレクトロニクス、科研製薬株式会社、株式会社京都テクニカ、京都電測株式会社、月桂冠株式会社、公栄運輸株式会社、株式会社コープク、コクヨ近畿販売株式会社、三幸総研株式会社、住友信託銀行株式会社、日新電機株式会社、日本電気化学株式会社、株式会社ホンダカーズ京都、有限会社村田堂、有限会社森田電設

●学校・保育園（3校・1園）

京都市立洛陽工業高等学校、京都市立藤ノ森小学校、京都市立朱雀第四小学校、社会福祉法人京都地の塩会つくし保育園

●団体・NPO（14団体）

社会福祉法人京都市社会福祉協議会、社団法人京都工業会、京都商工会議所、特定非営利活動法人環境市民、特定非営利活動法人気候ネットワーク、特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド、特定非営利活動法人きょうとNPOセンター、特定非営利活動法人KES環境機構、特定非営利活動法人コミュニティ・デザイン・センター、日本熊森協会、京都グリーン購入ネットワーク、京都府地球温暖化防止活動推進センター、京エコロジーセンター、京のアジェンダ21フォーラム

●行政

京都市（総合企画局地球温暖化対策室、産業観光局林業振興課）、京都市教育委員会（事務局学校指導課）、京都府（商工部産業活力支援総括室）



11月の休日 秋の観光交通対策を実施

マイカー観光から電車・バス利用への転換を促す取組を実施しました。
3ページ目の記事も合わせてごらんください。



期間限定で公共交通への乗り換えを促進する無料駐車場を運営



鉄道各社が連携して鉄道での観光をアピール

Agenda Forum

12月の
ミーティングと
主催行事の予定

12月11日（火） えこまつりWG運営会議、KESC水源の森づくりチーム現地視察
日時会場未定 2007（平成19）年度第5回幹事会・第4回常任幹事会合同会議

KESC 京都環境コミュニティ活動 (KESC)

4チームの取組がいよいよ具体化へ

(1) 自然エネルギー環境学習チーム

【メンバー】★:チームリーダー

●事業者

- ★渡辺千裕さん (生田産機工業株式会社)
- 山沢邦良さん (株式会社エコロ21 専務取締役)
- 芝原直子さん (有限会社森田電設)
- 坪内善男さん (京都市立洛陽工業高等学校 電気科 主任)
- 長屋博久さん (有限会社村田堂 取締役)

●コーディネーター

- 内田香奈さん (特定非営利活動法人環境市民)

「地域で働く人たちと電気について考えよう！」

このチームは昨年度活動を開始しました。

今年度も、児童にも身近な電気をテーマに、特に自然エネルギーを使った発電に焦点を当て、小学校で45分間の授業を行います。授業では、電気を例にエネルギーの大切さを感じてもらうとともに、地域の事業者が地球温暖化問題に取り組んでいることを伝えます。特製の風力発電機の模型など実験機材や小道具を使って、児童たちを飽きさせない工夫をこらします。

さらに今年度は新しく、保護者や学校周辺の地域の人たちも地球温暖化問題への取組に参加してもらう仕組みを考えていきます。

2月に藤ノ森小学校4年生を対象に授業を予定

伏見区の京都市立藤ノ森小学校の4年生97人を対象に授業を行う予定です。現在、メンバーが集まりワークショップを行って授業作りを進めながら、精力的に準備を進めています。

【写真】2006年度の藤ノ森小学校での授業の様子



(2) 交通環境学習チーム

【メンバー】

●事業者

- 山沢邦良さん (株式会社エコロ21 専務取締役)
- 駒阪一博さん (株式会社ホンダカーズ京都 法人課 課長)
- 松尾知恵さん (京都市社会福祉協議会 管理部 担当部長)
- 長屋博久さん (有限会社村田堂 取締役)

●コーディネーター

- 永橋為介さん (特定非営利活動法人コミュニティー・デザイン・センター 副代表)
- 内田香奈さん (特定非営利活動法人環境市民)

交通・福祉・環境を題材に授業を企画中！

メンバーが営むそれぞれの事業の特色を組合せ、交

通（自動車輸送）、福祉、そして環境対策に関連させた授業プログラムづくりを行います。

10月と11月に授業づくりワークショップを行いました。さらに検討を重ね、児童たちに、事業者のふだんの仕事をわかりやすく紹介しながら、仕事の中で、人にやさしく、地球への負荷を少なくする取組をすすめていることを伝える授業づくりを進めていきます。

2月に朱雀第四小学校6年生を対象に授業を予定

こちらのチームでは、中京区の京都市立朱雀第四小学校の6年生の児童50人を対象に授業を行う予定です。

【写真】授業づくりワークショップの様子



(3) 市民共同おひさま発電所チーム

【メンバー】★:チームリーダー

●事業者

- ★山本龍太郎さん (公栄運輸株式会社 代表取締役社長)
- 笠井文雄さん (公栄運輸株式会社 取締役総務部長)
- 久野義夫さん (公栄運輸株式会社 車両係長)
- 川阪益造さん (京都電測株式会社)
- 竹田利幸さん (科研製薬株式会社)
- 芝田春雄さん (株式会社コーフク)
- 長屋博久さん (有限会社村田堂 取締役)

●アドバイザー

- 大西啓子さん (特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド 事務局長)

保育園を核に環境に配慮した地域づくりを推進

京都には「市民共同おひさま発電所づくり」という、市民、事業者等の寄付をもとに、太陽光発電パネルを設置する事業があります。このチームでは、今年度、きょうとグリーンファンドの「つくし保育園に太陽光発電パネルを設置する事業」に寄付を行い、保育園を核に、環境に配慮した地域づくりをすすめていきます。

この事業には、省エネ活動だけではなく、ゴミを出さないイベントの実施や雨水利用へと取組が広がり、その活動も保育所だけではなく、家庭や地域に広がるなど、高い波及効果があります。

2月に伏見区の「つくし保育園」点灯式に参加 さらに環境教育プログラム作りへと発展させる計画

2月23日には、伏見区のつくし保育園において、完成した「おひさま発電所」の点灯式が開催され、チームもこれに参加する予定です。

さらにチームでは、来年度のつくし保育園での環境教育プログラムの実施に向けて準備を進めていきます。
(右ページへ続く→)

【写真】つくし保育園バザーにて、電車の模型を展示



(4) 水源の森づくりチーム

【メンバー】

●事業者

田島宏さん（日本電気化学株式会社 品質保証環境管理部 部長）
白潟昌彦さん（月桂冠株式会社 技術部 副部長兼品質保証課長）
谷山晋也さん（株式会社京都テクニカ）
池本好さん（株式会社エスケレクトロニクス 総務・人材管理部 環境・安全グループ統括）
上地繁樹さん（三幸総研株式会社 管理部 課長）
中原英明さん（住友信託銀行株式会社 京都支店法人営業グループ 法人運用コンサルタントチーム長）
長屋博久さん（有限会社村田堂 取締役）

●コーディネーター

永橋為介さん（特定非営利活動法人コミュニティ・デザイン・センター 副代表）

●アドバイザー

中島英雄さん（日本熊森協会 フィールド部長）

京都市右京区京北の京都市合併記念の森（予定）で人工林間伐と植樹を計画

植物と動物が織り成す生態系が保たれた豊かな森は、

全ての生物の命の源であり、全ての産業の基盤となるものですが、現在、京都でも行き過ぎた人工林化や温暖化等により森は荒廃しています。

このチームでは、京都市合併記念の森（予定）で人工林の間伐と広葉樹の植林を行い、水源涵養、地球温暖化防止、災害防止、野生鳥獣と共存する森づくりを行います。

ワークショップでビジョンを共有

来年度の本格展開へ向けチームが始動

チームでは、天然林や手入れのされていない人工林を視察するとともに、森づくりのビジョンの共有を目指すワークショップを行いました。

今後は来年度からの本格的な間伐・植林活動、学校や地域との連携に向けた準備作業を進めます。

【写真】佐々里峠視察の様子



(2) (3) (4)は京エコロジーセンターの平成19年度地球温暖化防止先進モデル事業で実施しています。

11月の休日 京都市内で秋の観光交通対策を実施

マイカー観光から電車・バス利用への転換を促す取組がいろいろ

嵐山と東山の交通対策研究会にフォーラムも参加しています。今年の秋の観光ピーク時にも、研究会での検討を経て、マイカーをできるだけ使わずバスや電車で観光してもらう各種の施策が実施されました。

なお、12月8日（土）～17日（月）には「京都嵐山花灯路」（点灯時間：17時～20時30分）が行われます。今年から花灯路の電力の一部に「京グリーン電力証書制度」を利用して京都市内の市民参加型太陽光発電施設「おひさま発電所」で発電されたものが用いられます。



五条坂（清水寺）と
京阪電車の駅を結ぶ
循環バスを運行



嵐山のメインストリート
（長辻通）では
自動車通行規制を実施

事務局動静 11月 ～事務局スタッフの動きを報告します～



1日（木） ジャスコ洛南SC訪問
5日（月） KES C環境学習ワークショップ
7日（水） 事務局会議
9日（金） 脱温暖化キャンペーンネットワーク会議
10日（土） KES Cつくし保育園バザー
12日（月） 脱温暖化キャンペーン

エネルギーチーム会議
14日（水） 政策提言プロジェクト打合せ
19日（月） 三条会商店街訪問
21日（水） えこまつりWG運営会議
23日（金） 脱温暖化フォーラム in 京都
24日（土）～25日（日） シンポジウム
「市民が進める温暖化防止2007」
26日（月） KES環境委員会
29日（木） 醍醐コミュニティバス運行管理委員会



【第6回】小山直美のドイツ報告 ドイツの人々の暮らし 食文化について



今年4月下旬から5月下旬までの1か月間、私がボランティアで関わっている日本熊森協会から、国際ロータリー第2680地区（兵庫県）のGSE（Group Study Exchange）プログラムで、ドイツ南西部シュトゥットガルト近郊に、環境研修に行かせていただきました。

今回からは、人々の暮らしについてご紹介させていただきます。

GSEプログラムでは、ホームステイ先がロータリークラブの会員の方々だったこともあり、大きなお屋敷に滞在させていただきました。私と同時に派遣されたメンバーの中には、ホストファミリーがお城の城主で、お城にホームステイした人もいました。私が滞在させていただいた家庭には、どこも緑いっぱいの美しい庭があり、ときどきリスが遊びにやって来ました。また多くの家庭にゲスト専用のシャワー、トイレがありました。ドイツの人々はきれい好きで、どここの家庭でもきちんと掃除や整理整頓がされており、居心地が良かったです。一般的な家庭でも、掃除のために家政婦さんを雇うことが少なくないそうです。

今回は、ドイツの人々の食文化について、一部ご紹介させていただきます。

■ドイツ南西部の料理

ドイツに行く前に、私は何人かの人から「ドイツでは、あまり食べものは期待しないほうがいいよ」と言われました。ドイツと言えば、ビールとジャガイモ、ソーセージ、黒パンのイメージがあります。しかし実際には、ほかにも美味しいお料理がたくさんありました。

例えば、この地方の伝統的な家庭料理にシュベッツレがあります。これは小麦粉と卵、塩、お湯で練って生地を作る料理で、パスタに似ています。私は「ケーゼ・シュベッツレ」という、シュベッツレにチーズをかけて焼いたものをいただきました。また、私たちが行った4月、5月頃は、大きな白いアスパラガス（ドイツ語ではシュパーゲル）の収穫の時期で、マーケットに行くと、立派なアスパラガスがたくさん売られていました。茹でたアスパラガスに溶かしバターなどをかけていただく、アスパラガスがメインの料理は、大変美味しかったです。ホームステイ先では、パスタやリゾットなど

のイタリア料理もよくご馳走になりました。

■ベジタリアンメニューも充実

ドイツでは、国民の1割がベジタリアン（菜食主義者）だと言われています。私もドイツ滞在中のたった4週間の間に、数人のベジタリアンの人と出会いました。レストランでも、ほとんどの場合ベジタリアンメニューがあります。

日本では、肉食はあまり環境問題と関連付けて考えられていませんが、世界的に見ると、家畜の増大に伴い、野生動物の減少、生物種の絶滅がすすんでいます。東南アジア、アフリカ、中南米などでは、家畜を放牧するため、また家畜に食べさせる飼料を作るために、森林が伐採され、野生動物のすみかが奪われています。肉などの畜産物を1kg生産するためには、その何倍もの穀物と大量の水が必要です。例えば牛肉1kgを生産するには11kg、豚肉1kgを生産するには7kgの穀物が必要とされます。先進国の人たちが肉食をやめれば、世界中の人たちが食べる分の食糧は十分あるとも言われています。

一説によると、行き過ぎた人工林化の問題がありながらも日本で現代まで多くの森林を残すことができたのは、大海人皇子が唐の律令制を取り入れる際に、唐の食文化だった肉食を禁じ、その後長期に渡って、肉食を食べる習慣が日本に根付かなかったからだと言われています。それに対し肉食文化であった欧米では、家畜を放牧したり家畜に食べさせる飼料をつくるための森林伐採が盛んに行われたことが、森林破壊の一因となりました。

米、野菜が中心の伝統的な日本食は、持続可能な食文化だと言われています。現在は日本でも洋食が一般的になっていますが、日本のふつうのレストランでも、ドイツのように、美味しいベジタリアン料理が食べられるようになると良いなあと思います。

（小山直美）

藤森通信 竹花 曲和子



ホームステイ先の家の庭



ケーゼ・シュベッツレ

事務局短信 年末が近づき、早くも忘年会のお誘いがかかるようになりました。環境問題に関心があるメンバーが幹事をしている宴では、新しいエコなお店との出会いも楽しみの一つです。（竹村光世）／家と職場とボランティア先の往復で、最近、疲労モードです。生活にうるおいが必要だと感じ、急に思い立ってDVDをレンタルして来ました。皆さんも息抜きしながら、ポチポチやっていてください。（小山直美）／京都では、11月の1ヶ月間に年間の観光客の15%が集中しています。11月の休日、マイカー観光を控えてできるだけ地球にやさしい電車やバスで移動してもらおうという、いろいろな取組を取材してきました。（長谷川吉典）